

聖書日課 『からし種』 2023.7.2-7.9

<p>7月2日 (日) I 歴代 5章</p>	<p>「ルベンは長男であったが、父の寝床を汚したので、長子の権利を同じイスラエルの子ヨセフの子孫に譲らねばならなかった」(1節)。創世記はルベンが弟ヨセフや父ヤコブを想う優しい兄であったことを記す一方、彼の「恥ずかしい罪」もしっかり記している。神の前に「恥ずかしい罪だらけ」の「わたし」のために、イエス・キリストは真実の愛を携えて来てくださった。</p>
<p>3日 (月) I 歴代 6章</p>	<p>「ソロモンがエルサレムに主の神殿を築くまで、彼らは幕屋、すなわち臨在の幕屋の前で詠唱者として仕え、その規則に従って任務に就いた」(17節)。レビ人たちは礼拝式を整えるさまざまな働きを担った。幕屋の時代から「賛美」が大切にささげられ、日々練習を積み重ねる詠唱者が立てられていた。私たちも今日、心込めて賛美をささげ一日を始めよう。</p>
<p>4日 (火) I 歴代 7章</p>	<p>「マナセの次男の名はツェロフハドと言ひ、ツェロフハドには娘たちがあつた」(15節)。男たちの名が並ぶ系図に、民数記 36 章の「ツェロフハドの娘たち」が再登場する。長男だけに土地の継承権が認められていた時代に、ツェロフハドの娘たちはモーセに訴えて女子への継承権を獲得したのだった。聖書は彼女たちの勇気を繰り返し想起するように招いている。</p>
<p>5日 (水) I 歴代 8章</p>	<p>「ヨナタンの子は、メリブ・バアル。メリブ・バアルにはミカが生まれた」(34節)。ダビデの盟友ヨナタンの子メリブ・バアルは別名メフィボシエト(IIサム9章)で、両足が不自由なためにヨナタンの死後は不遇をかこっていたが、ダビデによって王の食卓に連なる者となった。歴代誌はダビデとヨナタンの友情がその子孫の代にも覚えられ続けたことを証している。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.7.2-7.9

<p>6日 (木)</p> <p>I 歴代 9章</p>	<p>「ユダは神に背いたためにバビロンに捕囚として連れ去られた。最初に自分たちの町の所有地に帰って住んだのは、イスラエルの人々、祭司、レビ人、神殿の使用人であった」(1-2節)。歴代誌はバビロン捕囚ですべてを失ったイスラエルを「礼拝者として生きる使命」に招くために書かれた書物である。私たちの今日が神を礼拝する一日となるように。</p>
<p>7日 (金)</p> <p>I 歴代 10章</p>	<p>「サウルは、主に背いた罪のため、主の言葉を守らず、かえって口寄せに伺いを立てたために死んだ」(13節)。歴代誌が大切にしている視点は「礼拝者として生きる」こと。どのような肩書や地位にあるかは関係ない。今日、神から託された働きを「神の礼拝者として担う」と私たちを招く。今日という日を、主の言葉を大切に守る一日とすることができるように。</p>
<p>8日 (土)</p> <p>I 歴代 11章</p>	<p>『『彼らの命のかかった血をわたしが飲むことができますようか。』ダビデはその水を飲もうとしなかった』(19節)。歴代誌は数あるダビデのエピソードの中で、自らの身勝手な命令により兵士たちの命を危険にさらしてしまい、主の前に深く悔い改めるダビデの姿を、あえて選んで記している。世界中の「王たち」が、このダビデのように兵士の命を大切にできるように。</p>
<p>9日 (日)</p> <p>I 歴代 12章</p>	<p>「このすべての戦陣に臨める戦士たちが、全き心をもってヘブロンに集まり、ダビデを全イスラエルの王とした。イスラエルの他の人々も皆、ダビデを王位につけることに同意した」(39節)。「教会は人によって成ったものではなく、神によって成ったもの」。神の共同体は、全き心をもって人々が集い合い、ただ神のみ旨に聞き従って歩むことを求められている。</p>